あち議会だより

2017年（平成29年）
第89号
1月20日発行

12月定例会

★ 就任挨拶・退任挨拶　2ページ～
★ 12月臨時会・定例会のあらまし　5ページ～
★ 各委員会報告　7ページ～
★ 一般質問（11議員）　10ページ～
★ 天皇皇后両陛下をお迎えして　16ページ

「蒼 天　伍和 大鹿」　撮影：吉川　優

発行／長野県阿智村村議会　編集／議会広報委員会　〒395-0303 長野県下伊那郡阿智村駒場483番地　TEL 0265-43-2220　FAX 0265-43-4365

就任挨拶

歴史に学び、明日への一歩を踏み出そう

議長　髙坂和男

昨年の12月臨時議会において議長に選出していただき、就任いたしました。もとより微力な私でありますが、村民をはじめ多くの皆様のご協力のもと、全力で明日の村づくりに取り組んで参ります。

昨年を振り返ってみますと、村政60周年記念行事、多くの事業やイベントが催されました。また天皇皇后両陛下がご来村なされ、満蒙開拓平和記念館をご視察されました。私は村の60年の歴史と、両陛下の平和への思いとともに、戦後70年余の歴史の継承の大切さを学びました。

さて農林業・商業主体であった村は、今や観光業を基幹産業とする村に変化してきております。

「日本一の星空」で賑わっていますが、一時のブームで終わらせることなく、持続可能な村の基幹産業としてさらに発展させ、従来の基盤産業である農林・商業との両立を図ることが必要です。そのためには、昨年立ち上げた阿智☆昼神観光局と振興協議会等が協議を重ね、行政も交えた三者一体の方針を打ち出すことが交流人口の増加に繋がり、それが観光の発展と定住人口増加の施策となると思えます。

リニア問題における、工事の排出土と交通への対策は、本来ＪＲが自身の責任で対処すべき課題であり、村や県はＪＲに協力する立場であると考えます。

人口減少の問題、リニアの対応、指定管理施設・空き家の対処、子育て・介護問題等課題は多々ございますが、村民の皆様のお知恵をお借りする中で、幸せと安心を感じられる村作りを一歩ずつ着実に推進してまいりますので、ご協力の程、宜しくお願いいたします。

議会の構成が変わりました

議　長　髙坂　和男　　副議長　野村　和男

総務常任委員会
委員長　熊谷　義文
副委員長　寺田眞由美
委員　髙坂　和男
委員　吉川　優
委員　原　佐代子
委員　勝野　公人

産業建設常任委員会
委員長　吉田　哲也
副委員長　木下　勝吉
委員　白澤　明
委員　林　清子
委員　實原　恒禎
委員　野村　和男

政策検討委員会
委員長　木下　勝吉
副委員長　白澤　明
委員　全議員

リニア特別委員会
委員長　吉田　哲也
副委員長　實原　恒禎
委員　議長を除く議員

議会運営委員会
委員長　熊谷　義文
副委員長　林　清子
委員　野村　和男
委員　吉田　哲也
委員　寺田眞由美

議会広報委員会
委員長　林　清子
副委員長　吉川　優
委員　原　佐代子
委員　白澤　明
委員　髙坂　和男
委員　野村　和男

下伊那郡西部衛生施設組合議会議員
髙坂　和男
野村　和男
熊谷　義文
吉田　哲也

南信州広域連合議会議員
髙坂　和男
熊谷　義文

就任挨拶

将来に向けた村づくりを

副議長　野村和男

村議会の改選により12月より副議長に選任されました。もとより微力でありますが、全力で村づくりに取り組んで参りますのでよろしくお願いいたします。

さて、国においては、地方の活性化を促すために地方創生を打ち出しています。地方の人口減少に歯止めをかけ、日本全体の活力を上げることを目的とした政策としていますが、現状を見る限りでは、より充実した国の施策に期待するところです。村でも定住人口を増やすためＩ・Ｕターンの住み易い環境づくりに力を入れながら、定住に繋げることが必要と思われます。

リニア中央新幹線工事は、国の認可が下り工事が始まり、関係地域の安心・安全を第一に考えて、地域経済への不安の軽減などさまざまな問題を住民の皆様と話し合い、協議を重ねてまいります。

清内路地区ではリニア工事と中部電力発電所工事が重なり住民の不安は増すばかりです。中部電力、ＪＲに対して協議調整を求めていきます。

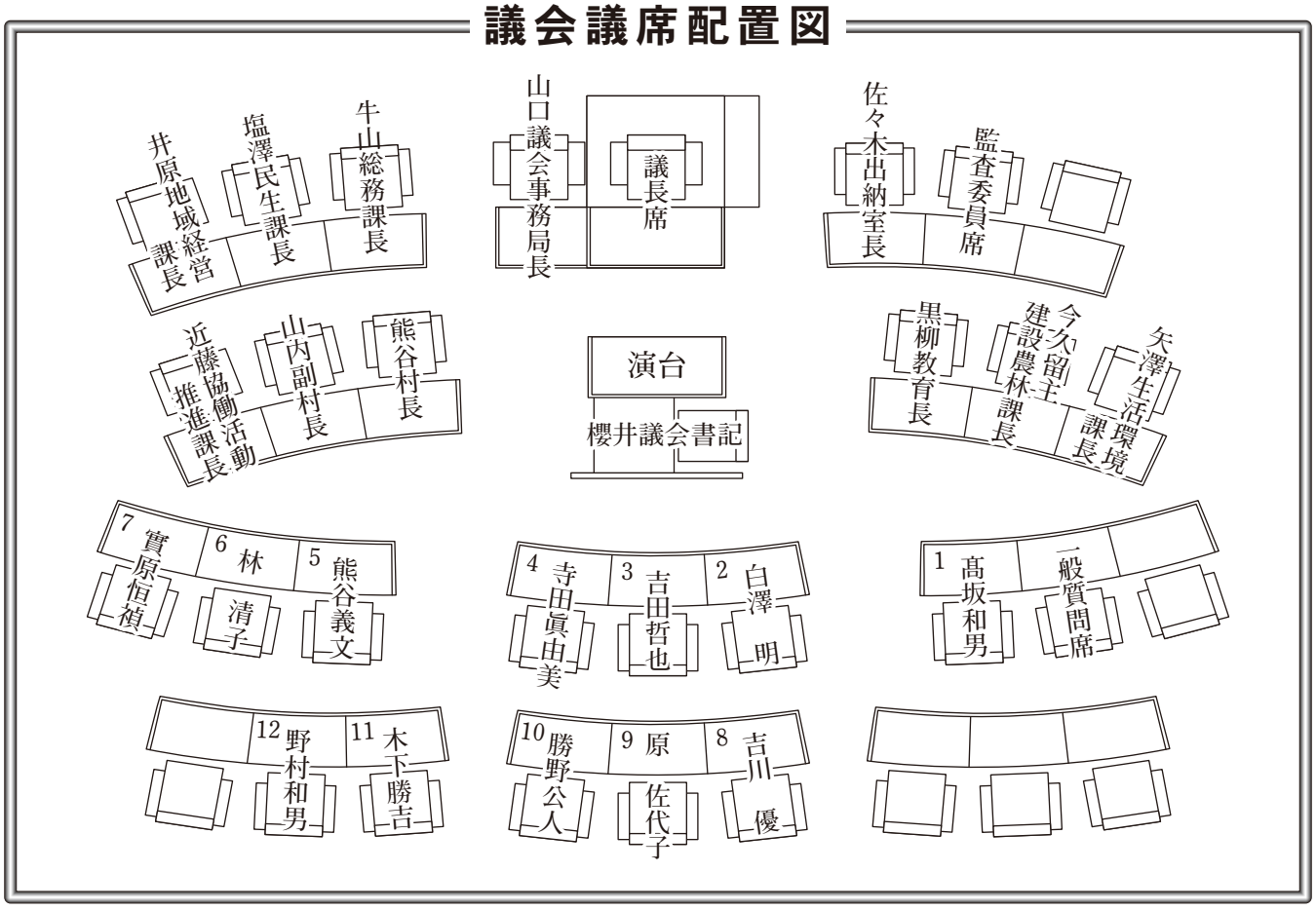
議会としても、リニア特別委員会を今議会も継続して研究・協議を重ねてまいります。阿智村リニア対策委員会、地元の清内路自治会リニア対応代表者会、1―20号地権者・利用者の会と、懇談を重ね協議するなかで方向を考えていきたいと思います。

阿智村は平成30年から第6次総合計画をスタートするにあたり、平成29年は計画策定の重要な一年となります。村民一人ひとりの声を聞き協働の村づくりを進めてまいります。

議員12名が力を合わせ、阿智村住民のために皆様のご意見をお聞きして、地域の発展、村の発展のために努力する所存でございます。

今後ともご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

議会議席配置図



阿智村の宝を活かして進化を！

この度、議会議員の任期満了に伴う改選により、私達6名が退任いたしました。微力ながら大変お世話様になりました。

各々1・2期の在任期間で、議員経験も浅く村民の皆さんからすれば物足りない部分もあったかに思います。

グローバルな経済環境の下で国政における厳しい財政状況を受けて地方自治に対する対応も大きく変化し、地方分権とは名ばかりで国の主導で合併推進が行われてきました。そうした中で村も少子高齢化・人口減少が進み様々な施策を展開してきましたが、それに伴う議会・議員活動はとても重いものだと感じてきました。

議会の役割のひとつに、村民の意思を集約し、行政の政策形成に携わり村の方向性を決定します。さらにそれらの施策がどのように実行され、問題が起きないか等監視と修正をする責務があります。

村民の皆様や行政と進めてきたのは、住民一人ひとりがこの村に生きていることに意味を感じられる村づくりであり、「住民自治を基本とする住民主体の村」をめざし、実現させていくという取り組みはこの間発展してきたと感じています。

この村づくりの理念とその実現への取り組みは、阿智村の宝として今後も村民の皆さんの力で常に進化させていっていただきたいと願います。

おわりに、村民の皆様のご健勝とご多幸をお祈りすると共に、多大なるご理解とご協力に、深く感謝申し上げます。

下原　賢市

退任された皆さん 大変お疲れ様でした

田中里司
（1期）

下原賢市
（2期）

髙坂美和子
（2期）

原　利正
（2期）
（清内路村議5期）

原　一広
（1期）

竹村正之
（2期）

新たな議会構成決まる

12月臨時会

※12月1日、改選後初の議会が開かれ、正副議長の選出など、議会の新たな構成が決まりました。議会構成の詳細については、2～3頁をご確認ください。

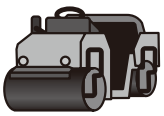
補正予算

◆一般会計（第4号）

・村道維持補修工事
3、796万円

天皇皇后両陛下の行幸啓を前に行った、道路の補修などにかかった予算の専決を承認しました。

なお、今回の補正については、普通交付税の充当によるものですが、特別交付税の対象となるよう要望をしていきます。



人事

阿智村監査委員の選任

・識見を有する者
熊谷 直人 さん
（智里東 下平）

・議会のうちから選任する者
勝野 公人 議員

以上2名の選任について同意しました。

12月定例会報告

12月定例会は9日（金）から21日（水）までの会期で行われ、20日（火）には11名の議員が一般質問を行いました。

人事

固定資産評価審査委員会委員の選任

橋本 功 さん
（伍和 丸山）の選任について同意しました。

条例等

【主な内容】

◆一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定

人事院勧告に伴う給与改定です。

給料表を平均400円0.2％、手当を0.1月分引き上げるものです。

◆阿智村税条例等の一部を改正する条例の制定

地方税法の一部を改正する法律等、上位法の改正に伴う改正です。

◆阿智村デイ・サービスセンター等設置条例の一部を改正する条例の制定

老人短期入所施設の規程を条例から削除し、デイ・サービスセンター設置条例にする改正です。

これにより老人短期入所施設としての『えんばな(浪合)』が廃止され、デイ・サービスセンターのみの運営となります。

指定管理者の指定

左記の通り指定することを議決しました。

◆阿智村温泉利用公営施設湯ったりーな昼神
一般財団法人
阿智開発公社

◆阿智村特別養護老人ホーム阿智荘
社会福祉法人
阿智村社会福祉協議会

◆阿智村デイ・サービスセンターえんばな
社会福祉法人
阿智村社会福祉協議会

補正予算

【主な内容】

◆一般会計（第5号）

【歳入】

・申告による法人税割額の減額
△1、501万円

・温泉使用停止に伴う温泉使用料の減額
△14万円

・ふるさとづくり寄付金（ふるさと納税）
1、000万円

・授産事業収入
464万円

【歳出】

・ふるさと納税増加による謝礼の追加補正　５１０万円

・実績と見込みによる定住住宅新増改築等支援金の追加　４００万円

・村内在住者が他市町村の保育所等を利用した場合に市町村へ支払う広域入所保育委託料　１１８万円

・授産施設の受注増加による作業員賃金追加
阿智授産施設　４４２万円
浪合授産施設　２２万円

・案件形成支援事業補助金を使用した、恩田井水における小水力発電の可能性等調査　１２９万円

・地方創生拠点整備交付金等を活用した、知の拠点整備事業の広域連合への負担金　５、２００万円

・下平ハイツ進入路の道路改良設計委託料　２２５万円

・中之橋改良工事に伴う中電柵移転のための補償料　１３３万円

・村営住宅の修繕料　１００万円

・第３分団詰所整備にかかわる補正　２、７４５万円

・実績と見込みによる耐震リフォーム補助金の追加　２５０万円

・恩田井水の被災復旧にかかわる経費　１、３８５万円

◆一般会計（第6号）

【歳入】

・ふるさとづくり寄付金が12月に入ってからも好調なための追加　１、０００万円

【歳出】

・共同調理場建設にかかわる交付金の返還　５、３１７万円

このほか、一般会計（第6号）、国民健康保険事業特別会計（第3号）、水道事業特別会計（第3号）、下水道事業特別会計（第2号）及び介護保険特別会計（第2号）では、給与改定や職員の異動等によるものなどの補正が行われました。

平成28年度補正予算

※千円以下切捨（農集排除く）

会　　計	補　正　額	補正後の額
一般会計（第４号）　臨時会　専決	３,７９６万円	５２億　　８７万円
一　般　会　計（第５号）	１億６,０９４万円	５３億６,１８２万円
一　般　会　計（第６号）	７,４０４万円	５４億３,５８６万円
国民健康保険事業特別会計（第２号）	△７３７万円	７億４,８００万円
国民健康保険事業特別会計（第３号）	予備費へ　７０万円（補正後の額に変更なし）	
水道事業特別会計（第２号）	△３０８万円	２億７,９９１万円
水道事業特別会計（第３号）	予備費へ　１０９万円（補正後の額に変更なし）	
下水道事業特別会計（第１号）	８０４万円	２億８,８０４万円
下水道事業特別会計（第２号）	予備費へ　３万円（補正後の額に変更なし）	
介護保険特別会計（第１号）	１,１７６万円	８億　９７６万円
介護保険特別会計（第２号）	８４４万円	８億１,８２０万円
農業集落排水事業特別会計（第１号）	△４千円	７,１４６万６千円

消防団第３分団の詰所を新設！

総務常任委員会

平成28年度一般会計補正予算（第5号）について

☆歳入

【地方創生拠点整備交付金】

Q 交付金の内容は。

（2、600万円）

A 広域連合が進めている、「知の拠点施設」建設に向け、村の負担金の半額をこの交付金で充当するものです。

【地方交付税】

Q 今年度分の交付税の残額はどの位か。

A 今回の補正時点で約1億7千万円余りとなっています。

☆歳出

【財産管理費】

Q 震災復興特別交付税返還金の内容は。

（3、205万円）

A 東日本大震災後に特別交付税として復興特別交付税が、当村には5、991万円が交付されました。この交付税を大規模防護柵設置に充て、平成24年度に2、786万円の事業を行いました。その後、この交付税の趣旨等を鑑み、残額について未調整額として扱っていましたが、今年度になり、国において返還制度が新設され、返還命令が出されてきたため今回返還するものです。

Q ふるさとづくり基金積み立て金とは。

（1、000万円）

A ふるさと納税による寄付金を積み立てるものです。当村ではこの制度の本来の目的を考え、当初はあまり力を入れてきませんでしたが、他市町村の状況等踏まえ、少しずつ返礼品の充実を図ってきたところ、ここにきて寄付金が増えてきました。返礼品については物品によって多少差はありますが、約5割程度を想定しています。

【授産施設事業費】

Q 作業員賃金の増額の内容は。

（442万円）

A 年度当初の見込みより、受注量が増えており、その増額分を賃金として支払うものです。ダンボールの仕切り、農産加工品の包装等の仕事が増えている状況です。

【非常備消防費】

Q 消防団詰所整備事業はどこの分団か。

（2、600万円）

A 老朽に伴い第3分団の詰所を整備します。場所については備中原部落に用地が確保できましたが、若干狭いため、52㎡の用地取得があります。

【災害対策費】

Q 耐震リフォーム補助金の実態は。

（250万円）

A 当初の見込みより多くなっており、現在12件の申請があります。今後も見据え増額するものです。

平成28年度国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）について

Q 平成30年度から国保事業が長野県に一本化されるが、基金はそれまでもちそうか。

A 今年度の医療費は前年比90％で推移しており、現在の見通しでは若干保有した状況で迎えられそうです。

Q 医療費が減っている要因をどのように捉えているか。

A 健康常会、健康フェスティバル、トリプルA事業等に取り組む中で、住民の皆さんの健康に対する意識が高まってきたことが大きな要因と捉えています。関心を持っていただくことが大切と考えていますので、今後もご参加をお願いします。

Q 高額医療者も減っているのか。

A 透析者等は減っていませんが、入院される方が減っていると思われます。平成27年度の医療費は、長野県77市町村中42番目となっています。

平成28年度介護保険特別会計補正予算（第1号）について

Q 補正の内容は。

A 今回の主な内容は、交付金や負担金、補助金の確定に伴う精算によるものです。

委員会報告

上下水道補正予算、繰入金減も、今後に課題

産業建設常任委員会

一般会計補正予算（第5号）

【商工費】

Q 知の拠点事業の第2期工事の内容は。

A 南信州広域連合の事業で、旧飯田工業高校において、工期は平成29年3月から31年3月まで、概算事業総額は8億円です。工事内容は、体育館棟1階と2階の改修です。1階は公設試験場機能、2階はホール機能の施設となります。これは、上郷別府の南信州飯田産業センターの機能を移し、国や宇宙航空研究開発機構（ＪＡＸＡ）の試験研究施設等の誘致も目指したいとしています。なお1期工事では校舎の改修が行われ、来年4月以降、信州大学航空機システム協働研究講座が入るように整備中です。工事は、4期まで計画されています。今回の工事に関し、阿智村割当分が5、200万円、うち半分が地方創生交付金で、残り2、600万円を地方債で賄います。

【土木費】

Q 下平ハイツ侵入路の路肩崩落状況について、どのような点検があって発見されたか。どのように対策するか。

A 従来から落石が続いていたので様子を見ていました。路肩のフェンスも一部ゆがみ始めていて、危険な状況と判断しました。侵入路については別路線をつけます。既存道路には水道管などの重要なインフラ埋設物があるので、それはそのまま設置にしますが、新しい道路ができたら現在の道路は通行止めにします。

Q 小水力発電施設設置の可能性を調査する案件形成支援事業委託料129万円では、予定している恩田井水以外の河川も調査してもらえないのか。設置するとなった際の補助は。

A 農業用用排水を利用した発電が可能かの調査が対象なので、他河川は想定できず、恩田井水での調査となります。施設建設には50％の補助があります。なお、今回の調査では、例えば建設には1億円程かかるが、補助の残りは、年間2千万円売電できれば、施設維持管理経費を差し引いたとしても、5～6年で支払い完了見込みとなる、という運用面まで調査してもらえます。

Q 住宅管理費の修繕料が100万円増ということだが、住宅修繕の内容等は。

A 場所につきましては、3年程度使用していなかった智里西中央団地、浪合大平住宅、伍和の大鹿の住宅などです。給湯器や水回りの修繕が主です。

【災害復旧費】

Q 災害復旧工事費に関し、台風16号で被災した恩田井水の状況について。

A 土砂はけ部分が28メートル流されました。工事費については総額が1、248万円、65％が国庫補助、補助残の90％が起債、受益者分担金は5％となっています。

特別会計補正予算

【水道、下水道、農集排事業】

Q 料金改定の効果は。

A 水道事業では、10％の増収となります。

今年度は繰入金を予算より減額できます。しかし、多数の水道処理施設を保有するなか、健全運営のためには、3年に一度程度、料金の見直しを検討する必要があろうかと思います。一般会計から繰り入れを行っている状況ですが、施設の老朽化も進んでおり、基金を取り崩したり借金をしたりして対応する必要があります。

Q 基金の状況は。

A 水道の基金は27年度末で9、900万円。下水道が3億9千万円、農集排は530万円という状況です。

議会構成がかわって再スタート

リニア特別委員会報告

1　活動概要

特別委員会会議は、2回実施しました。

正副委員長及び正副議長はリニア対策委員会に出席しており、同委員会は期間中1回実施されました。また、同委員会幹事会には、正副委員長が、この期間中2回参加しました。

2　会議内容

（1）委員会会議

この間の会議では、行政からリニア対策委員会の取り組みに関する報告を受けるなどのほか、以下の協議をしました。

① 前議会のリニア特別委員会の引き継ぎ事項の確認ついて

任期満了にともなう議員選挙により、12月より議会構成がかわりました。今議会でもリニア特別委員会が設置されたところですが、発足にあたり、まず、前議会のリニア特別委員会が引き継ぎとしてまとめた事項について確認しました。内容につきましては、

・社会環境アセスメントの成果がリニア諸問題対応の基盤であること。

・現在のリニア対策委員会は、阿智村におけるリニア諸問題について、住民、有識者、議会、行政が協議する円卓であること。

・阿智村における工事の受け入れ合意とは、村とＪＲ東海の間での協定書等文書の交換をもってすること。その内容案作成はリニア対策委員会で行い、村が議会に示し、議会の合意を得て完成となること。

・リニア対策委員会が作成した3つの要望（1―20の二車線化と歩道の設置、発生土置き場の可能性について1―20号周辺ならびに黒川上流域の調査、村が決めた場所を発生土置き場とする）が、発生土諸問題における村の現在の要望となっていること。なお南木曽からの土については受け入れられないこと。

・リニア諸問題対応のための特別交付税措置の要望は引き続き求めること。

などとなっています。

この内容につきましては、前議会におけるまとめということで理解をし、今後、リニア対策委員会での協議、村との協議、また住民のみなさんの声を聴く中で、リニア新幹線工事にかかわる諸問題について対応していくことを確認しました。

なお、前リニア特別委員会が5回の学習会を行った報告書集が議会事務局にあり配布できます。すでに議会だよりなどで公表しているものですが、興味ある方は議会事務局までお問い合わせください。

（2）その他

① 12月5日のリニア対策委員会において、ＪＲ東海ならびに県から、同委員会が作成した二度目の質問書の回答がありました。議会では、その内容をもとに次の質問を作成し、リニア対策委員会に持ち寄り、再質問書づくりに資するようにします。

② 今後、村とＪＲ東海が、協定書など文書を取り交わすことが想定されています。その項目について、どのような内容を入れるべきか検討を開始することとしました。これについてはリニア対策委員会に示し、出席する議員、行政、住民代表の方ともども協議していく考えです。最終的には、先の引き継ぎ事項にある通り、村からの提案を受け議会で判断する考えです。

学校給食費の補助を

食育と共に保護者の負担軽減も検討したい

林　清子

学校給食費の補助について

問　27年3月にも給食費補助の質問をした。近隣の町村も前回より補助割合が高くなった。全額補助が2村、7割補助が1村、半額補助が4町村等、飯田市と阿智村以外は何らかの補助をしている。また、一般会計に占める教育費の割合は、各町村で3・7から13・2％、阿智村は6・5％です。条件が異なるので一概に比較はできないが、この数字をどのように捉えるか。

黒柳教育長　確かに一概に多寡を論じるのは難しい。施設整備等の要求が各学校から出ているが、村全体のバランスを考えながら、必要な予算については教育委員会として首長部局に計上していきたい。

問　子供が3人いる家庭では1月に約15、000円の給食費を負担しなければならない。家庭の給食費の負担を認識されているか。また教育費のパーセンテージをどのように捉えているか。

村長　施設整備や教員の充実も整える必要がある。食育にも力を入れたい。給食費については以前から意見をいただいている。家庭の負担が和らげばと考えてはいた。教育委員会と相談しながら検討していきたい。

要望　村長は定住に力を入れていると認識している。子育て支援の中で、小中学生の子を持つ親の支援は少ない。私も定住のために補助だけが重要だとは思わないが、近隣の町村が実施している以上、同じ土俵に乗ることも必要ではないか。給食費の半額を補助しても教育費の割合は0・25％上がるだけです。教育は未来への投資です。思い切った決断をお願いします。

平成29年度予算編成はどのような考えで臨むのか

合併61年目のスタートの年として、住民目線で課題を明確にし、しっかり計画を立て進める

熊谷義文

問　平成29年度予算編成に向けてどのような考え方で臨むのか。

村長　この3年間、村民の皆さんに解りやすい行政という意識をもって、細かな部分を少しずつ進めてきた。合併61年目のスタートの年として、住民目線で、どう村を売り出してゆくか、プロデュースしていくかを考えたい。

問　平成27年度決算で約2億円の基金への積み立て、3億8千万円の村債の繰り上げ償還を行った。もう少し事業を行うべきではなかったのか。また予算編成の時点で、数字の積み上げに甘さはなかったのか。

村長　事業実施において節約したり、効率化を考えながら進めた結果である。将来の財政も踏まえた対応と理解していただきたい。

問　産業振興公社の充実のため、引き上げたままの、職員の派遣はされないのか。

村長　庁内の職員数との兼ね合いもあり慎重に検討したい。

問　昼神温泉のホテルや旅館が老朽化している現実がある。大きな雇用の場でもあり、職場としての体制づくり、温泉の街づくりも早急に進められたい。

村長　街づくりについては、将来構想検討委員会で進めている。また、施設改修に対する融資事業である「リフレ昼神」についても継続していきたい。

問　人口減対策として各地区の活性化が必要である。要望のある地域には振興協議会の設置や集落支援員の配置をするべきだが。

村長　課題が明確になり必要であれば考えていくが「住民主体」という面から住民自らの力による地域づくりにも期待したい。

問　現在の医療体制をどのように捉えているか。

村長　国が進める「在宅による介護、看護」に向け訪問看護体制づくり等、大きな課題と考えている。

平和への想いは

史実を二度と繰り返さないおもいを後世に

寺田眞由美

1　平和への想い

問　満蒙開拓平和記念館がある村として、これからどう次世代に平和を語り継いでいくか。

村長　村民一人ひとりが、特に子ども達がこの歴史をしっかり知ることで、人を思いやる、村を愛する、平和への意識が高い村として発展していくと思います。

問　沖縄市との友好都市締結についての考えは。

村長　平成16年から小中学生の交流が始まり、沖縄市の産業まつりで阿智のリンゴの販売をし経済交流も行っています。姉妹交流を望みたいですが、阿智村とは規模が違いすぎることもあり、沖縄市は今検討中です。

2　定住促進について

問　移住者受入れ数が6年間で273人（142件）あったとのこと。制度利用の新築や空き家など住居の利用状況は。

近藤協働活動推進課長　平成21年から26年までの定住支援センターが関わったケースで、新築30件、空き家25件、その他6件（民間アパート2件、実家4件）でした。

問　空き家調査の結果は。

協働活動推進課長　平成25年273戸が平成28年288戸で14戸増えた状況です。空き家バンク登録における活用状況は平成28年75件のうち売買13件、賃貸中37件その他5件で、活用されていない空き家が20件。現在85件登録中活用されていない空き家が29件です。

問　6年間の移住者のうち農家希望者は。また最近の問い合わせで農家希望者は。

協働活動推進課長　農家希望者は8件で問い合わせは1件前後です。

問　土地を守る農業の担い手定住促進に力を入れる考えは。

村長　都会の若者が農業をしたいということがわかった。28年度から農業と定住を結びつける集落支援員を置いているが、どうPRしていくかが課題です。

新教育長に阿智の教育を聞く／ふるさと納税を自治会振興に

読む力、書く力を育てる／提案できるようにしたい

吉田哲也

問　全国学力学習状況調査の今年度阿智村における結果と所感は。

黒柳教育長　学力については、全体を通して、読む力、書く力の弱さがあります。小学校から国語を中心に、指導方法を検討していきます。学習状況については、全国と較べて学習習慣がついており、意欲的に学習に取り組む姿が増えています。

問　阿智村は小学校5校を維持する考え方を示しているが、小規模校が多い。小規模校には課題もあるが、様々な研究の中で、むしろ望ましいとする考え方もある。阿智村では小規模校の良さを存分に輝かせる方策を追及することが大切と思うがどうか。

教育長　同感です。小規模校には児童一人ひとりへのこまやかな対応や、人のつながりをテーマとした取り組みができます。県内ではインターネット技術を活用した他校との合同授業の在り方の研究が続けられ、注目しています。村の歴史や自然をいかした阿智村スタイルを確立したいです。

問　ふるさと納税の寄付額が、12月中旬時点で昨年度比4倍弱の約2千万円と好調だが、原因は。

牛山総務課長　インターネットからの申し込み、クレジットカード決済も可能としました。返礼品については寄付額の3割程度の品だったところを5割程度に引き上げました。さらに返礼品や寄付額のメニューを充実したこと等が奏功していると考えています。

問　寄付の際にいくつかの使途項目があり、選ぶことができる。自治会の振興事業にあてるという項目を全自治会分つくり、各自治会に寄付が流れる仕組みをつくってはどうか。

村長　村内各地ご出身の方の、その地への思い入れもあろうかと思います。内部でまた検討して、提案していけるようにしたいです。

一般質問

阿智村の森林及び林業の現状について

自然とマッチした広葉樹の里山づくりへ

白澤　明

問　阿智村の山林において、村としてどのような考え、思いがあるか。

村長　山林は、様々な役割を果たすために良好な管理を行っていかなくてはなりません。材価の低迷により、林業に関心のない山林所有者が増加しつつあり、森林を放置しないよう、自然とマッチした広葉樹の里山づくり等々の施策を推進していきたい。

問　当村の林業従事者数及び林業事業者数は。

今久留主建設農林課長　下伊那地域において、27年度林業事業体14、就業者数257名、10年前の585名に比し43・9％減となっています。

問　県の切り捨て間伐補助金なし、搬出間伐補助金ありの制度に対して、村の考えは。また切り捨て間伐にも、ある程度の補助をお願いしたい。

建設農林課長　切り捨て間伐に全く補助がつかないわけではないが、以前に比べ条件付き。村内で未整備の人工林がまだまだあり、切り捨て間伐補助の必要性を感じています。

問　他市町村では、様々な森林に対する施策を執っている自治体があるが、参考にしている施策は。

建設農林課長　根羽村が「林業立村」をかかげ、路網整備、森林組合育成、木質バイオマスの導入などを進めており情報は得ている。伊那市の林業機械貸出、購入補助、木質バイオマス関連の補助は承知している。参考にできることは取り入れていきたい。

問　林業活動展開中の「わたりぜ会」に対する認識は。

村長　村づくり委員会を通じ、防災の森づくり、どんぐりの苗からの広葉樹の森への展開を全国にPR、村としても提言をいただいている。

振興協議会の考え方は

3地域今年度で期限が終わるが、来年度以降は自治会と協議し進める

木下勝吉

地域振興について

問　振興協議会の考えかたは。

村長　振興協議会のスタートは、合併により行政の手薄となったところを、住民の力で補うことから始まったと聞いている。地域の発展に資するための機関として設置した村長の諮問機関である。今年度で清内路が7年目で4期、浪合が11年で6期、智里西が5年で2期、それぞれ平成29年3月までの期限で取り組んでいる。自治会も役員の持ち回りや、なかなか長いスパンで考えることができないことがあり、またお役、イベント等も重なりうまくいかなかった時期もあった。来年は第6次総合計画を立てる時期でもあり、自治会とも相談しながら進めていきたい。

問　2つの調理場の給食数、給食費の差額、トラブルは。

黒柳教育長　共同調理場625食、浪合調理場48食である。また給食費の年間差額は、共同調理場と比べると、浪合の低学年は3千円、高学年は7千円の増額となっている。給食費の未納額は27年度が1件約9万4千円、28年度25件約41万4千円であり、支払う意思があると捉えている。

問　給食費の全額補助は。

村長　将来の財政状況から考えると、いきなりは無理ではないか。ただ子供さんを持つ家庭の負担を少しでも和らげればとは考えている。教育委員会とも相談しながら進めたい。

森林資源のリサイクル化について

問　今年度計画の搬出間伐面積、全森林面積は。

今久留主建設農林課長　搬出間伐面積は約17ha、150㎥をペレットの原料として利用する。全森林面積は1万9、400haの内、国有林が約2、700ha、民有林で1万6、700haです。この民有林のうち1、500haが間伐の必要があります。

一般質問

情報の一元管理とデータの活用について

情報の管理は各部署で管理されており、これからはさらにデータの活用が大切

實原恒禎

問　村のデータ等はどのように管理されているのか。

牛山総務課長　村では体系的にデータを収集するという体制にはなく、各所管がデータ収集をおこなっています。たとえば、介護保険計画策定のための高齢者実態調査は民生課で、農業の実態調査は建設農林課でといったように、それぞれの担当部署がおこなっており、データの管理もそれぞれの部署が管理しています。

問　今まで蓄積してきたデータはどのように活用しているのか。

総務課長　平成27年度に策定した村の人口ビジョンや総合戦略においてもデータは活用されていますし、これから策定する第6次総合計画においても、今までに蓄積されてきたデータを活用することとなります。

問　データ活用の面からも住民にも事業評価をしてもらい、行政、議会、住民の事業評価を公開したらと思うがどうか。

村長　村では前年度に実施してきた事務事業についてこの数年は、行政による自己評価、議会における評価を経て、その結果をその後の事務事業に反映するようにしています。以前には、第三者評価や住民による事業評価を実施したこともありましたが、なかなか難しい面もありました。住民の皆さんから評価をいただくにはどういった仕組みが良いのか研究したいと思います。

提案　簡単な評価シートを作成し、点数制にすれば住民の方もよくわかると思うがどうか。

問　将来、村としてデータの活用をどう思うか。

村長　国では「官民データ活用推進基本法」ができ、今後様々なデータの活用が更に進んでいくと思います。これからは、収集したデータが誰でも見やすく、利用しやすい形で管理し、活用していくことも大切なことと感じています。

「平和を発信する阿智村」のとりくみ／学童保育について

平和記念館を訪問し平和学習を実施／支援員確保困難な状況

原　佐代子

問　天皇皇后両陛下が、満蒙開拓平和記念館を訪れた意味を深くとらえることが求められている。学校での系統的な平和学習は。

黒柳教育長　小学6年生を中心に記念館を訪問し、語り部の人からもお話を伺っている。中学3年生は記念館での学習をもとに文化祭や、社会教育プレ集会で発表している。

問　あちっ子ライフでとりくんでいる、ノーメディア週間の8月を、親子で「平和を考える週間」と位置付けたらどうか。

教育長　規則正しい生活習慣を身につけるための週間。家族として8月を平和の話し合いをしてほしい。

問　〝星〟を観光のみに留まらせず、教育面からもとらえ、平和をセットで「星と平和を訪ねる修学旅行」を企画・発信したらどうか。

村長　スキーツアーの子ども達に星も見て、満蒙開拓で平和学習がセットでできればいいと思う。

問　「広島平和バス」の派遣は。

教育長　阿智村と交流のある沖縄を通じて平和学習をやっている。広島は村民の声があれば考えていきたい。

学童保育について

問　昨年法改正があったが、位置づけがどう変わったか。

教育長　2人の支援員のうち1人は研修を修了した者でなければならない。

問　支援員の現状とその対策は。

教育長　第一、第三小の学童にはパート職員はそれぞれ2人の支援員を配置している。第二小は嘱託職員1人と交代勤務のパート職員2人で対応している。代替えパート職員は1人。週20時間以上勤務するパート職員は雇用保険に加入している。

問　支援員を確保するための待遇改善は。

村長　パート職員でなく嘱託職員で募集。校長会、PTAなどにも打診してみる。

観光立村の未来への構想は／星事業と次への展開は

未来に向けた事業を新しくできた観光局とともに具体的にしていきたい

吉川　優

問　村は観光立村として大きく舵を取り、形を整えてきた。7年後には、宇宙旅行が格安で売り出され、星や宇宙から地球そのものを見る時代がやってくる。そんな時代の星事業とそれ以外の展望は。

村長　平成18年度より昼神との協力で滞在型観光を目指し、東山道をはじめ色々な地域資源を生かし、今後長野県全域と地域を、星をキーワードとしてつなぎ、山岳観光等、新しくできた観光局と連携し取り組んでいきたい。

問　本年行った一斉に明かりを消して星を見る事業は継続されるのか。

村長　教育の面からも、スマホ等をやらず星を見て色々考えようという良い企画なので、星のきれいな時期を選んで行いたい。

問　浪合、伍和が観光という面では弱い。浪合の紅葉は決して京都に負けない。伍和は南・中央アルプスから八ヶ岳山渓まで見える日本で唯一の場所であり、日本種の福寿草の群生地等もある。伍和自治会ではそうした場所の遊歩道も整備されつつあるが、2地域を生かす計画は。

村長　浪合は星の駅、スキー場を生かすという事と、花というキーワードを前面に押し出しながら、伍和も山脈の美しさをアピールし色々の事に生かしてゆく。また、村民一人ひとりが大人、子ども共に外から来られた方々に地域の案内ができるような事も考えたい。

問　現在色々な箱物が、村にとってとても重荷になっており、新しく場を作ることもできない。シェアハウスにするなどの考えは。

村長　検討はしているが、決定打がなく悩み事となっている。高齢者住宅等研究委員会で、今後足腰据えて地域との連携を取り組んでいく。

村政60周年と第6次総合計画について

歴史は一日一日の人の思いの積み重ねによる地域づくり

勝野公人

問　村政60周年に何を思うか。

村長　熊谷元一先生の写真に子供を通して時代の移り変わり、時代の背景を学び、天皇陛下の満蒙開拓平和祈念館へお見えになったことに平和の尊さを感じました。

問　新たな村づくりに有効利用されていない公有財産の利用の見極めは。

牛山総務課長　公有財産検討委員会の答申を尊重し、建設経過が違うので各施設ごとに判断していきます。

問　第6次総合計画は人口減に伴い、経験のない厳しい計画策定になります。人口減少の時代は、量から質への効率的な行政運営が必要となり、広域連携（南信州定住圏構想）の充実が必要と考えますが。

総務課長　南信州定住圏構想は、飯田市の都市機能を維持し、周辺町村が持つ特性を活かし南信州地域全体が協力して、定住施策・人口減少対策に取り組む構想で益々重要になってくるものと考えます。

問　合併当時の再三の集中豪雨の災害復旧で財政の厳しい中でも、地域の復興は教育が重要だとして阿智中学校の建設が進められました。

　人口減少の進む中においてこそ、村づくりは教育の充実が益々必要と考えます。

村長　地域振興は地域で子どもの声がすることであり、学校教育を基本に地域での教育が大切です。子供が世界に大きくはばたいても阿智村を支える人間になっていただきたい。

問　第6次総合計画策定の考えは。

村長　人口減少を如何に食い止めるかが最大の課題であります。

　自治の意識を高め、協働の村づくりによる地域力の向上で住み良い地域づくりが人口増に寄与されると考えます。

　第5次総合計画を検証しつつ多くの皆さんの意見を聞き計画策定を進めます。

一般質問

地域づくりの現状とリニア中央新幹線問題

住民の納得するまでＪＲの説明を求める

野村和男

問　人口減少は27年と比べてどのような推移か。

近藤協働活動推進課長　人口は27年の４月から12月の期間で68人の減少で、28年４月から12月期間では62人の減少にとどまっている。

問　定住支援員の活動成果は。

協働活動推進課長　不動産の民間業者との協力体制の構築、空き家調査結果から所有者の空き家活用意向調査実施に対応している。

問　振興協議会の現状について。

村長　振興協議会は浪合、清内路、智里西地区に設置清内路は旧清内路中学校の後利用、智里西地区は今までの取り組みの検証、浪合地区は治部坂星の駅構想を中心に協議をしていただいている。

問　村の制度による機関としての振興協議会存続は。

村長　自治会との整合性もある、自治会と話し合いで進めてほしい。

問　リニア中央新幹線工事の安心、安全について。

村長　現在発生土置き場の調査はＪＲで行っておりますので少しずつ具体化するなかで住民の安心安全を担保していく。

問　発生土置き場が不適合となった時の対応について。

村長　黒川上流域で可能性を調査している、専門家を交えて地形、地質、工法についても地元の意見を聞きながら判断する。全て置けない時は地元と十分に話し合いを持ち、県を通じて村内候補地を、ＪＲに情報を提供し検討していく。

問　環境保全協定書を結ぶのか。

村長　住民説明会、県、ＪＲの文章のやり取りをふまえて、確認書、覚書、などの文章を考えている。有事の際責任の所在などＪＲと取り交しを求めていき、取り交わす内容は、対策委員会が原案を策定し、議会、村で協議・確認し文章を取り交わす。

介護保険「地域包括ケアシステム」研修会報告

12月19日根羽村老人福祉センターしゃくなげに、村長と全議員で研修会に行きました。

飯田医師会理事の佐藤健先生より、社会保障制度改革による病院から在宅へ、施設から地域への流れ、そしてそれを支える制度設計のため、我々議員が何をしなければならないかを学んできました。

ここ数年日本の65歳以上人口は2千万人強で推移し、介護認定率の平均が50％とすると、1千万人強が認定者となります。また、後期高齢者の人口は高止まりで、入院医療費は65歳未満の5倍以上となるとのことです。高齢者の入院医療費と介護給付費の抑制のため、地域包括ケアシステムを構築し、都道府県の体制作りをすることが喫緊の課題です。

今のままでは介護難民や介護離職者が増え、地域社会の崩壊が始まると、ご自身の壮絶な体験を例に語られました。

研修会の様子

次に、情報通信技術、飯田下伊那診療情報連携システム『ism-Link（イズムリンク）』について、事務局の丸山晃先生からお話をお聞きしました。イズムリンクを利用すると、ネットワーク回線により、飯田下伊那の山間部であっても、各種医療機関が連携し情報を共有することで、地理的条件に左右されることなく、24時間365日在宅の患者さんを支えることができます。

課題としては、連携システム構築のための光ケーブルの延伸等インフラ整備、不足している介護現場の人材確保のための支援等々があり、議員として地域包括ケアシステムについて改めて考えていく必要があると実感し帰ってまいりました。

天皇皇后両陛下をお迎えして

事情により村議選の投票日を一週間繰り上げたいと、村から議会へ報告があったのは、9月の会議においてでした。両陛下のご来村は村始まって以来のことであり、村道整備等も行うこととしましたが事情を公にできたのは10月半ば過ぎでした。

その後、村長議長は、お出迎えとお見送りをするようお話があり、さらに昼食会へのご招待もいただいたところです。さて困った、何をお話しすれば、何を着ていったらと、体中がこわばる思いで当日を迎えました。

11月16日、柔らかな日差しの降り注ぐ昼神温泉郷はお出迎えの村民で埋め尽くされていました。数台の車が到着し、両陛下が車から降りられて最初になさったことは、歓迎の声かけの方向へ6～7メートルお二人寄り添いながら歩み寄りお手を振られてお応えされたことです。何より国民とのふれあいを大切にされているご様子を伺いました。

17日の昼食会では宮内庁の方を含め飯田市長・議長、阿智村長・議長の9席でいただきました。松花堂弁当に栗おこわ、マツタケ吸い物、柿のデザートなど地域の味を感じさせる美しい献立でしたが味の記憶はありません。両陛下は、窓の外に広がる谷間の紅葉の話から始まり、食材のきゃらぶきや凍み豆腐、塩イカなど話題を次々広げられ、緊張なく話の途切れることもなく、あっという間の1時間でした。皇居での生活が垣間見えたり、外国訪問時の星空のお話、開拓団員の苦労やかつて来飯した折の思い出など多岐にわたったのですが、何より皇后さまのその場を作りあげるお心づかいに心を打たれました。終わりに皇后さまより、私が福祉の道を歩んできたことへのねぎらいの言葉をいただき感激いたしました。

多くない私的旅行の視察先に満蒙開拓平和記念館を選ばれたことに、天皇皇后両陛下の平和を願うお心の深さに触れた思いがします。国策としてすすめられた満蒙開拓の史実を、この記念館のある阿智村は、そして私たち村民はしっかり学び、埋もれさせてはならないと強く感じたところです。

任期の終わりにまたとない機会をいただきましたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

前阿智村議会議長
髙坂 美和子

満蒙開拓平和記念館前にて（写真提供：長野県）

昼神温泉郷にて（写真提供：長野県）

ご意見・ご感想を議会事務局までお寄せください。また、議会傍聴に足を運んでみてください。

議会事務局

電 話(43−2220) FAX(43−4365)
E-mail gikai@vill.achi.nagano.jp

あとがき

議会が改選され広報委員会も新メンバーでスタートいたしました。

表紙は伍和から望む南アルプスです。今回から各自治会の自慢の風景、行事等の写真を順番に掲載させていただく予定です。これはと思う写真がございましたらご一報いただけると幸いです。

この議会だよりがお手元に届くころには新しい年が始まり、お仕事に、学校に皆様がんばっておられることと思います。私共も多くの皆様に議会だよりを手にとって見ていただけるよう努めてまいります。

どうぞ皆様の新しい年が明るく佳い年でありますように。

委員長 林 清子